金山小児童　×　沖縄県宜野湾市立大山小児童
オンラインで交流を深める

１月13日、最上広域市町村圏事務組合と、沖縄県中部広域市町村圏事務組合の少年少女交流事業の一環として、金山小学校５年生と、沖縄県宜野湾（ぎのわん）市立大山小学校の５年生が、ビデオ会議アプリ「Zoom」を通じてオンラインで交流を深めました。

両事務組合は1988年に姉妹広域の盟約を結んで以降、30年来交流を続けています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、両圏域を行き来する事業は中止になりましたが、交流を途切れさせないため、また自然と文化、歴史の違いを学ぶためにオンライン交流会を行うこととなりました。

この日は、金山小５年生24名の児童が参加し、須藤琉希志（るいし）さんが「今回の交流を楽しみに勉強してきた。短い時間だけど交流会を楽しみましょう」と開会を告げ、大山小の児童たちと画面越しに交信しました。音声がうまく届かず、接続が不安定な場面もありましたが、児童たちは大きく手を振るなどし、終始和やかな雰囲気で交流が進みました。

交流会では、お互いに“いま”を伝えるビデオを視聴したり、地域クイズを出し合いました。金山小の児童たちは金山杉、観光、特産品、祭りなどをクイズにし、町の魅力を紹介。一方大山小児童からは、沖縄の妖怪、気候、沖縄にある米軍基地の割合などのクイズが出され、児童たちは答えを相談しながら楽しみました。給食の時間では、金山小には沖縄そばやチャンプルー、大山小ではつや姫、ずんだ餅などお互いの地域の食材を使ったメニューが提供され、食文化の違いも体験しました。金山小の小野莞汰（かんた）さんは「クイズを出し合ったり、沖縄の海の映像を見たりして楽しかった。沖縄給食は、もずく酢がとてもすっぱかった」と笑顔で話してくれました。

遠く離れた沖縄の児童たちと同じ時間を過ごす貴重な体験となりました。